



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年1月29日

上場取引所 東

上場会社名 日水製薬株式会社

コード番号 4550 URL <http://www.nissui-pharm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 小野 徳哉

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 (氏名) 谷津 精一

TEL 03-5846-5611

四半期報告書提出予定日 平成27年2月6日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	8,682	△10.3	1,428	△29.2	3,313	27.2	2,192	31.5
26年3月期第3四半期	9,683	△3.1	2,019	△5.3	2,604	9.2	1,666	23.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	97.89	—
26年3月期第3四半期	74.43	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭
27年3月期第3四半期	33,280		30,412		91.4	1,357.92
26年3月期	32,290		29,213		90.5	1,304.36

(参考)自己資本 27年3月期第3四半期 30,412百万円 26年3月期 29,213百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	17.00	—	19.00	36.00
27年3月期	—	19.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	19.00	38.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年 3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,200	△7.2	2,200	△22.7	3,700	1.5	2,400	4.1	107.16

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	22,547,140 株	26年3月期	22,547,140 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	150,891 株	26年3月期	150,493 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	22,396,389 株	26年3月期3Q	22,396,927 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における国内経済は、政府の経済政策や日本銀行の金融緩和政策を背景として、一部にやや足踏みが見られるものの緩やかな回復基調が続いております。一方で、消費税増税の影響が予想以上に長引いていることなどにより、消費マインドは低下傾向にあり、総じて、景気の先行きに不透明感が拭い切れない状況にあります。

臨床診断薬業界においては、より一層の低コスト化や高性能化を志向する顧客ニーズの高まりにより企業間の競争が激化し、また、産業検査薬業界においては、衛生管理体制の強化を志向する顧客の増加などプラス材料はあるものの、相次ぐ競合参入による業界内の価格競争が進むなど、いずれも厳しい事業環境が続いております。

医薬品業界においては、医療費抑制施策の基調に変化はなく、OTC医薬品の国内需要が伸び悩む状況が続いており、今後も厳しい事業環境が続くことが予想されます。

また、化粧品業界においては、人口減少や少子高齢化により成熟した市場ではありますが、海外メーカーや他業種の市場参入により競争の激化が続いております。

このような状況のもと、当第3四半期累計期間の売上高は前年同四半期に比べ 10 億0百万円(10.3%)減少し、86億82百万円となりました。利益面におきましては、営業利益は前年同四半期に比べ5億90百万円(29.2%)減少し14億28百万円、経常利益は投資有価証券売却益の発生などにより前年同四半期に比べ7億9百万円(27.2%)増加し33億13百万円、四半期純利益は前年同四半期に比べ5億25百万円(31.5%)増加し21億92百万円となりました。

セグメントごとの業績を示すと、次のとおりであります。

臨床診断薬事業においては、検査機器、OEM 分野が伸長しましたが、上半期の免疫血清学的診断用薬分野の商品における販売低迷の影響が残り、また一部の検査項目について従来の培養検査から遺伝子検査への移行が進み、当第3四半期累計期間の売上高は前年同四半期に比べ2億41百万円(6.0%)減少し37億92百万円となりました。分野別では、微生物学的診断用薬が12億71百万円、免疫血清学的診断用薬が20億44百万円、精度管理用血清他が2億59百万円、検査用機器および器材他が2億17百万円となりました。この事業の営業利益は前年同四半期に比べ2億29百万円(21.0%)減少し8億64百万円となりました。

産業検査薬事業においては、第1四半期に見られた消費税増税に伴う駆け込み需要の反動による粉末顆粒培地等の販売低迷を補うべく、新製品の販売が徐々に寄与しつつありますが、当第3四半期累計期間の売上高は前年同四半期に比べ63百万円(2.9%)減少し21億0百万円となりました。分野別では、微生物学的検査薬が17億15百万円、免疫血清学的検査薬が3億0百万円、検査用機器および器材他が85百万円となりました。この事業の営業利益は前年同四半期に比べ84百万円(12.2%)減少し6億11百万円となりました。

医薬事業においては、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動からの回復遅れと市場環境変化の影響を挽回すべく、主力医薬品や健康食品の販売力強化に取り組んでまいりましたが、当第3四半期累計期間の売上高は前年同四半期に比べ5億57百万円(20.7%)減少し21億33百万円となりました。分野別では、医薬品が13億16百万円、健康食品他が8億17百万円となりました。この事業の営業利益は前年同四半期に比べ1億80百万円(36.6%)減少し3億12百万円となりました。

化粧品事業においては、消費税増税後における個人消費の鈍化の影響を挽回すべく、取扱店拡大に取り組んでいるものの影響を補うまでには至らず、当第3四半期累計期間の売上高は前年同四半期に比べ1億38百万円(17.4%)減少し6億55百万円となりました。この事業の営業利益は前年同四半期に比べ87百万円(34.3%)減少し1億68百万円となりました。

ただし、各事業に配賦できない支援部門に係る費用等5億27百万円が控除されておりません。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ9億90百万円増加し332億80百万円となりました。主な増加は有価証券5億93百万円、未収入金42億61百万円(うち、投資有価証券売却分42億79百万円)によるもので、主な減少は現金及び預金10億89百万円、投資有価証券20億70百万円によるものです。

当第3四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ2億8百万円減少し28億67百万円となりました。主な増加は流動負債のその他(未払金3億8百万円)によるもので、主な減少は未払法人税等6億17百万円によるものです。

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ11億99百万円増加し304億12百万円となりました。

この結果、自己資本比率は91.4%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、第2四半期累計期間の業績を踏まえ、平成26年5月8日付「平成26年3月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」において発表いたしました通期の業績予想を変更しております。

詳細につきましては、平成26年10月9日に公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,168	2,078
受取手形及び売掛金	3,226	3,076
有価証券	513	1,107
商品及び製品	1,558	1,541
仕掛品	358	361
原材料及び貯蔵品	851	844
未収入金	38	4,300
繰延税金資産	209	109
関係会社預け金	5,188	4,814
その他	90	85
貸倒引当金	△27	△25
流動資産合計	15,176	18,295
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,072	1,976
機械装置及び運搬具(純額)	418	356
土地	2,770	2,770
建設仮勘定	64	131
その他(純額)	43	72
有形固定資産合計	5,369	5,307
無形固定資産		
ソフトウェア	22	21
その他	12	12
無形固定資産合計	35	34
投資その他の資産		
投資有価証券	11,513	9,442
その他	220	258
貸倒引当金	△25	△57
投資その他の資産合計	11,708	9,643
固定資産合計	17,113	14,984
資産合計	32,290	33,280

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,100	1,214
未払法人税等	826	209
賞与引当金	191	51
役員賞与引当金	26	9
歩戻引当金	17	18
その他	482	913
流動負債合計	2,645	2,416
固定負債		
退職給付引当金	3	3
その他	427	447
固定負債合計	431	451
負債合計	3,076	2,867
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,449	4,449
資本剰余金	5,378	5,378
利益剰余金	19,041	20,382
自己株式	△97	△98
株主資本合計	28,771	30,112
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	441	299
評価・換算差額等合計	441	299
純資産合計	29,213	30,412
負債純資産合計	32,290	33,280

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	9,683	8,682
売上原価	4,630	4,292
売上総利益	5,052	4,390
販売費及び一般管理費	3,033	2,961
営業利益	2,019	1,428
営業外収益		
受取利息	77	55
受取配当金	138	154
投資有価証券売却益	337	1,627
投資有価証券償還益	48	-
デリバティブ評価益	-	24
その他	11	23
営業外収益合計	613	1,885
営業外費用		
支払利息	0	0
為替差損	2	0
デリバティブ評価損	26	-
その他	0	0
営業外費用合計	28	0
経常利益	2,604	3,313
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産処分損	0	8
投資有価証券評価損	-	53
特別損失合計	0	61
税引前四半期純利益	2,604	3,252
法人税、住民税及び事業税	849	952
法人税等調整額	87	107
法人税等合計	937	1,060
四半期純利益	1,666	2,192

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

① 前第3四半期累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

a. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				
	臨床診断薬事業	産業検査薬事業	医薬事業	化粧品事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	4,034	2,164	2,691	793	9,683
セグメント利益	1,093	696	492	256	2,537

b. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額
の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,537
全社費用(注)	△518
四半期損益計算書の営業利益	2,019

(注)全社費用は主に支援部門に係る費用等であります。

② 当第3四半期累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

a. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				
	臨床診断薬事業	産業検査薬事業	医薬事業	化粧品事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	3,792	2,100	2,133	655	8,682
セグメント利益	864	611	312	168	1,955

b. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額
の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,955
全社費用(注)	△527
四半期損益計算書の営業利益	1,428

(注)全社費用は主に支援部門に係る費用等であります。